

川崎 英明 教授 略歴

1951年 3 月	長崎県松浦市で生まれる
1973年 4 月	大阪大学法学部卒業
1975年 3 月	大阪大学大学院法学研究科修士課程修了
1979年 3 月	大阪市立大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
1979年 4 月	島根大学法文学部講師
1982年 4 月	島根大学法文学部助教授
1991年10月	島根大学法文学部教授
1994年 4 月	東北大学法学部教授
1998年 4 月	東北大学より博士（法学）の学位授与
1998年11月	民主主義科学者協会法律部会理事（～現在）
1998年12月	東北大学評議員（～2000年11月）
2000年 5 月	日本刑法学会理事（～2003年 5 月。同2006年 5 月～2012 年 5 月）
2001年 4 月	関西学院大学法学部教授
2004年 4 月	関西学院大学大学院司法研究科教授
2011年10月	ハワイ大学（マノア校）ロースクール客員研究員（～ 2012年 3 月）
2012年 4 月	関西学院大学大学院司法研究科長（～2014年 3 月）
2019年 3 月	関西学院大学退職（定年）
2019年 9 月	弁護士（大阪弁護士会）登録（～現在）

その間、九州大学大学院法学研究科（1997年度）、同法学部（2010年度）、島根大学大学院法務研究科（2006年度）、大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻（2017年度、2019年度、2020年度）にて非常勤講師を勤める。

主 要 著 作

【単著】

- 1997年 『現代検察官論』（日本評論社）
2003年 『刑事再審と証拠構造論の展開』（日本評論社）
2017年 『刑事司法改革と刑事訴訟法学の課題』（日本評論社）

【共編著】

- 1993年 『刑事弁護』（日本評論社）
1997年 『盗聴立法批判』（日本評論社）
1998年 『刑事弁護コンメンタール・刑事訴訟法』（現代人文社）
1999年 『自由のない日本の裁判官』（日本評論社）
2000年 『盗聴法の総合的研究』（日本評論社）
2004年 『法科大学院ケースブック・刑事訴訟法』（日本評論社）
2007年 『刑事司法改革と刑事訴訟法（上・下）』（日本評論社）
2014年 『刑事司法改革とは何か』（現代人文社）
2015年 『刑事訴訟法理論の探究』（日本評論社）
2016年 『リーディングス・刑事訴訟法』（法律文化社）
2017年 『改正刑事訴訟法・通信傍受法一条文解析』（日本評論社）

【論文等】

- 1976年 「成立期におけるドイツ検察制度（1・2）」法学雑誌23巻3号，
同4号
1978年 「ミッターマイヤーの刑事司法論（1・2）」法学雑誌25巻2号，
同3＝4号
8(778) 法と政治 71巻2号（2020年9月）

- 1979年 「財田川事件再審開始決定」法律時報51巻11号
- 1980年 「公訴権濫用の法理と問題点」ジュリスト715号
「再審運用の実態—吉田事件」鴨良弼編『刑事再審の研究』（成文堂）
- 1981年 「西ドイツ警察の動向」ジュリスト733号
- 1982年 「ドイツ検察制度の史的考察」刑法雑誌25巻2号
- 1984年 「西ドイツ刑事訴訟におけるおとり捜査の規制」法学雑誌31巻1号
- 1986年 「被疑者不詳の搜索差押令状」法律時報58巻6号
「おとり捜査の規制」島大法学30巻1号
「差押の範囲」法律時報58巻11号
- 1987年 「警察活動と搜索押収」法学セミナー増刊『現代の警察』
「任意捜査と強制捜査（1・2）」アーティクル12号・13号
「公訴権と訴訟条件（1・2）」アーティクル18号・19号
- 1988年 「共犯者の自白は信用できるか（上・下）」（共著）法学セミナー399号・400号
「違法捜査と訴訟障害」島大法学31巻1号
「否認と保釈」法律時報60巻12号
「刑事司法への国民参加（1・2）」アーティクル33号・34号
- 1989年 「刑事司法の担い手」（共著）ジュリスト930号
「再審請求棄却決定の論理と問題点」法律時報61巻9号
「（座談会）刑事再審の理論的課題」法律時報61巻9号
「死刑判決の誤りを正した最高裁判決」（共著）法学セミナー417号
- 1990年 「無罪という結論だけでいいのか」（共著）法学セミナー432号
「盗聴の規制と令状主義・強制処分法定主義」石松竹雄判事退官

- 記念論文集『刑事裁判の復興』（勁草書房）
- 「（座談会） 檢察は何を問われているか」法と民主主義248号
- 1991年 「無罪事例の意義とこれからの課題」法学セミナー441号
- 「（座談会） 刑事裁判は甦るか」法学セミナー441号
- 「檢察官論の課題」高田卓爾博士古稀祝賀論文集『刑事訴訟の現代的動向』（三省堂）
- 「違法取調べの抑制方法」井戸田侃編『総合研究・被疑者取調べ』（日本評論社）
- 1992年 「明白性と新規性」法律時報64巻 8 号
- 「付審判制度活性化の基礎視点」自由と正義43巻 7 号
- 「93歳の再審請求」法学セミナー457号
- 1993年 「当番弁護士制度の成果と今後の課題」自由と正義44巻 7 号
- 「被疑者不詳の搜索差押令状」（ほか 3 編）村井敏邦・後藤昭編『現代令状実務25講』（日本評論社）
- 1994年 「刑事再審の現状と総合評価」法学雑誌40巻 4 号
- 「誤判に目を閉ざしてはいけない（上・下）」（共著）法学セミナー479号・480号
- 「再審の将来と榎井村事件」（共著）日本弁護士連合会編『やっとなんもんはやっとなん』
- 1995年 「刑事手続法理論史研究の発展」法律時報67巻 1 号
- 「（座談会） 刑事法理論史研究の現代的課題」法律時報67巻 1 号
- 「刑事弁護と当番弁護士」法社会学47号
- 「再び草加事件を問う」（共著）法学セミナー485号
- 「補充捜査と適正手続」法律時報67巻 2 号
- 「事実認定の現状と刑事弁護の課題」季刊刑事弁護 3 号
- 1996年 「刑事再審と証拠構造論」法学59巻 5 号
- 10(780) 法と政治 71 巻 2 号 （2020 年 9 月）

- 「再審で問われているもの」法学セミナー496号
- 「少年司法の改革課題と改革論議のあり方」季刊刑事弁護 7 号
- 「適正手続—その課題」法学セミナー502号
- 「司法試験改革問題」『アエラムック・法律学がわかる』
- 1997年 「再審請求事件の展望」季刊刑事弁護 9 号
- 「盗聴立法の憲法問題点」法律時報69巻 4 号
- 「名張事件・最高裁棄却決定を問う」法学セミナー509号
- 「盗聴の問題性格と理論性格」法律時報69巻10号
- 「被疑者国公選弁護制度の可能性」佐伯千仞博士卒寿記念論文集
『新・生きている刑事訴訟法』（成文堂）
- 「情況証拠による事実認定」光藤景皎編『事実誤認と救済』（成文堂）
- 1998年 「市民的自由論の到達点と寺西裁判官懲戒問題」法と民主主義
329号
- 「少年事件と適正手続」法学セミナー517号
- 1999年 「刑事訴訟法学のあり方」法律時報71巻 3 号
- 「（座談会）刑事訴訟法改革の課題と展望」法律時報71巻 3 号
- 「最高裁名張決定と証拠構造論」法学61巻 6 号
- 「刑事弁護と権利運動」井戸田侃先生古稀祝賀論文集『転換期の
刑事法学』（現代人文社）
- 「証拠開示問題と刑事弁護の課題」季刊刑事弁護19号
- 「盗聴法と令状主義」法律時報71巻11号
- 2000年 「（座談会）刑事弁護センター10年の歩みと刑事弁護の展開」季
刊刑事弁護21号
- 「団体規制法の違憲性」（共著）法律時報72巻 3 号
- 「東電 OL 事件無罪判決と勾留問題」季刊刑事弁護23号

- 「犯罪被害者二法と犯罪被害者の権利」法律時報72巻9号
「保釈の憲法論と罪証隠滅のおそれ」季刊刑事弁護24号
「刑事手続と人権」法の科学29号
「事実認定と証拠構造論」梶田英雄判事・守屋克彦判事古稀祝賀
論文集『刑事・少年司法の再生』（現代人文社）
- 2001年 「犯罪被害者保護二法と刑事手続」法学セミナー556号
「刑事弁護と人権」法の科学（増刊）『誰のための刑事司法改革
か』
「犯罪被害者保護と刑事弁護」日弁連『平成12年度法律実務の
諸問題』（第一法規）
- 2002年 「司法改革で刑事裁判はよくなるのか」世界2002年11月号
「（座談会）動き出した刑事司法改革」法律時報74巻7号
- 2003年 「白鳥・財田川決定再生の道」季刊刑事弁護34号
「刑事再審の現状と課題」法律時報75巻11号
「（座談会）再審の展望と誤判救済」法律時報75巻11号
- 2004年 「刑事司法改革の成果と課題」法学セミナー594号
「オウム裁判が投げかけたもの」法律時報76巻7号
「（座談会）刑事司法はどう変わるか」法律時報76巻10号
「（座談会）裁判員制度への不安と期待」世界2004年11月号
Zur Reform des Straf- und Jugendverfahrensrecht, Zeitschrift für
japanisches Recht, 9 Jahrgang, Vol.9
- 2005年 「大崎事件即時抗告審決定の論理と問題点」季刊刑事弁護42号
「少年法改正と警察」法律時報77巻6号
「名張事件・再審開始決定を考える」法学セミナー607号
「刑事司法改革と事実認定論」法律時報77巻11号
「刑事弁護の自由と接見交通権」小田中聰樹先生古稀祝賀論文集
- 12(782) 法と政治 71巻2号（2020年9月）

『民主主義法学・刑事法学の展望・上巻』（日本評論社）

2006年 「刑事訴追論の今日的課題」 刑法雑誌45巻 3 号

「日本の通信傍受法」 徐勝編『現代韓国の安全保障と治安法制』
（法律文化社）

「（座談会）横浜事件第1 審免訴判決をどうみるか」 法律時報78
巻12号

「（座談会）事件・公判をどうみるか」 法律時報増刊『新たな監
視国家と市民的自由の現在』

2007年 「接見禁止決定下の第三者への伝言」 季刊刑事弁護50号

「刑事裁判への被害者参加制度の批判的検討」 季刊刑事弁護50
号

「（座談会）犯罪被害者と刑事訴訟」 法律時報79巻 7 号

「未発生犯罪の捜査と警察活動」 法と政治58巻 1 号

「裁判員制度の課題」 法律時報79巻12号

「接見交通権と刑事弁護の自由」『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文
集・下巻』（成文堂）

2008年 「（座談会）光市事件裁判の論点を考える」 現代人文社編集部
『光市事件裁判を考える』（現代人文社）

「裁判員制度と任意性立証・特信性立証」 季刊刑事弁護54号

「裁判員裁判の審理のあり方」 季刊刑事弁護56号

「秘密交通権と刑事弁護」 後藤国賠訴訟弁護団編『ビデオ再生と
秘密交通権』（現代人文社）

「（講演）裁判員裁判と刑事弁護の課題（上・下）」 法学セミナー
649号・650号

2009年 「憲法的刑事手続と憲法学への期待」 法律時報81巻 5 号

「犯罪被害者と刑事手続」 犯罪と刑罰19号

- 2010年 「検察は再生できるのか」法律時報82巻13号
「日本検察の特質と検察制度改革の課題」法と民主主義454号
- 2011年 「検察の役割と倫理」法律時報83巻9・10号
「(座談会) 足利・村木事件の教訓と刑事訴訟法学の課題」法律時報83巻9・10号
「検察審査会の審査対象と若干の論点」村井敏邦先生古稀祝賀論文集『人権の刑事法学』（日本評論社）
「(座談会) 最高裁による事実認定の適正化の『第2の波』」季刊刑事弁護65号
- 2012年 「東電 OL 事件再審開始決定と誤判救済の課題」法律時報84巻10号
「誤判と刑事司法改革」斎藤豊治先生古稀祝賀論文集『刑事法理論の探究と発見』（成文堂）
- 2013年 「裁判員裁判の課題」白取裕司編『刑事裁判における心理学・心理鑑定の可能性』（日本評論社）
「435条～437条・注釈」藤永幸治ほか編『大コンメンタール刑事訴訟法・第10巻』（青林書院）
- 2014年 「無罪判決後の勾留」生田勝義先生古稀祝賀論文集『自由と安全の刑事法学』（法律文化社）
「通信会話の傍受」犯罪と刑罰23号
- 2015年 「改革か、反改革か」法学セミナー720号
「現代日本の警察」法律時報87巻9号
- 2016年 「黙秘権保障における黙秘権告知の意義」『浅田和茂先生古稀祝賀論文集・下巻』（成文堂）
「再審請求審の審判対象と明白性」美奈川正章先生・上田國広先生古稀祝賀論文集『刑事弁護の原理と実践』（現代人文社）
- 14(784) 法と政治 71巻2号 (2020年9月)

「法学者声明研究の意義と課題」,「各法分野の声明運動—刑事法」法の科学47号

「強制起訴制度の改革課題と検察審査会制度」自由と正義67巻12号

2017年 「検察審査会のはりきりすぎか」後藤昭編『刑事司法を支える人々』(岩波書店)

「共謀罪と刑事手続の変容」法セミ編集部編『共謀罪批判』(日本評論社)

2018年 「(講演) 刑事訴訟法はどこへ行くのか」東北学院大学法学政治学研究所紀要26号

「死刑判決における量刑事実の誤認と再審事由」季刊刑事弁護95号

「(中間総括・刑事司法改革) 裁判員制度—その現状と課題」法律時報90巻11号

2019年 「(中間総括・刑事司法改革) 犯罪被害者と刑事手続」法律時報91巻3号

「共謀罪の刑事弁護をめぐる諸問題」日弁連『現代法律実務の諸問題』(第一法規)

「(中間総括・刑事司法改革) 取調への可視化」法律時報91巻10号

「井戸田捜査構造論の今日的意義」犯罪と刑罰28号

2020年 「(中間総括・刑事司法改革) 起訴基準と訴追裁量」法律時報92巻3号

【判例評釈・書評・解説等】

1977年 「(書評) 小田中聰樹著『刑事訴訟法の歴史的分析』」法の科学5

法と政治 71巻2号 (2020年9月) 15(785)

号

「世界の未決拘禁法—オーストリア」法律時報49巻12号

「(判例評釈) 被告人の罪証隠滅のおそれと第三者の罪証隠滅工作」法学雑誌24巻2号

1979年 「(紹介) ヘルマン・クラウトウ『刑事上訴制度改革の努力について』」甲南法学19巻2・3・4号

「西ドイツ刑事訴訟における弁護権保障」島大法学23巻1号

1980年 「二重の危険と検察官上訴」別冊判例タイムズ7号『刑事訴訟法の理論と実務』

「再逮捕・再勾留, おとり捜査」井戸田侃・光藤景皎編『司法試験シリーズ・刑事訴訟法』(日本評論社)

1981年 「裁判所, 検察官と司法警察」田宮裕編『ホーンブック刑事訴訟法』(北樹出版)

「(紹介) ギュンター・ハーバー『3月前期の刑事訴訟史の諸問題』」島大法学24巻2・3号

「(判例解説) 自白に基づいて発見された証拠」『刑事訴訟法判例百選・第4版』

「検察関係文献解題」法学セミナー増刊『現代の検察』

1982年 「(書評) 井戸田侃著『刑事手続構造論の展開』」法律時報54巻11号

「(紹介) ペーター・リース『起訴法定主義の将来』」警察研究53巻7号

「刑事裁判」島根大学法学研究会編『現代法学入門』(第一法規)

1983年 「証拠による裁判, 危険な証拠の排除」横山晃一郎編『現代刑事訴訟法入門』(法律文化社)

「(判例解説) 迅速な裁判」ジュリスト増刊『昭和57年度重要判

16(786) 法と政治 71巻2号 (2020年9月)

例解説』

「緊急逮捕，別件逮捕，任意捜査の限界」中川淳編『判例辞典』
(六法出版社)

「手続—警察・検察・裁判」刑法理論研究会編『現代刑法学原論』
(三省堂)

1984年 「公訴」能勢弘之ほか編『刑事訴訟法』(青林書院)

「(紹介) ハンス・ユルゲン・ブルンス『新しい刑事訴訟禁止』」
警察研究55巻7号

「(紹介) 西ドイツ刑事訴訟法改正のための参事官草案の紹介
(4)」警察研究55巻9号

「検察官」高田卓爾・田宮裕編『演習刑事訴訟法』(青林書院)

1985年 「(書評) 横山晃一郎著『誤判の構造』」法の科学13号

「(紹介) ハイント・ミューラー・ディーツ『未決勾留執行の問
題点とその改革』」島大法学29巻1号

「判例回顧と展望—刑事訴訟法」(共著) 法律時報増刊『判例回
顧と展望1984』

「(判例解説) 検察官による起訴の選択と裁判所の審理範囲」
ジュリスト増刊『昭和59年度重要判例解説』

1986年 「起訴便宜主義，訴因の変更等」庭山英雄ほか編『刑事訴訟法
100講』(学陽書房)

「判例回顧と展望—刑事訴訟法」(共著) 法律時報増刊『判例回
顧と展望1985』

1987年 「(判例解説) 誤って訴因の追加がなされた場合の措置」ジュリ
スト増刊『昭和62年度重要判例解説』

「治安と刑法」竹内正・伊藤寧編『刑法と現代社会』(嵯峨野書
院)

- 1988年 「(書評) 大塚一男・本田昇著『松川事件調査官報告書』」 法律時報60巻13号
「起訴猶予」 法学セミナー408号
- 1989年 「事実認定論の課題」 刑法雑誌29巻3号
「刑事訴訟法年表」(共著) 法律時報61巻10号
「刑事公判はなぜ面白くないか」 法学セミナー418号
- 1990年 「犯罪捜査と被疑者および市民の関わり」 村井敏邦編『現代刑事訴訟法』(三省堂)
「(判例解説) 公訴の提起・追行の違法性」 法学教室112号
- 1991年 「(書評) 村山真維『警邏警察の研究』」 法社会学43号
「(判例解説) 山本老再審請求に対する棄却決定」 法学教室126号
「現場写真等」 杉村敏正・天野和夫編『新法学辞典』(日本評論社)
「検察官の客観義務」 別冊ジュリスト『刑事訴訟法の争点・新版』
- 1992年 「Michigan v. Sitz」 アメリカ法1992年1号
「(判例解説) 形式裁判の内容的確定力」 『刑事訴訟法判例百選・第6版』
「起訴便宜主義等」 中山研一編『刑事法小辞典』(成文堂)
- 1993年 「38条～42条注釈」 高田卓爾編『基本法コンメンタール刑事訴訟法』(日本評論社)
「判例回顧と展望—刑事訴訟法」 法律時報増刊『判例回顧と展望1992』
- 1994年 「(書評) 三井誠著『刑事手続法1』」 法学教室16号
「判例回顧と展望—刑事訴訟法」 法律時報増刊『判例回顧と展望1993』
- 18(788) 法と政治 71巻2号 (2020年9月)

- 「(判例解説) 逮捕理由を争う国家賠償請求」ジュリスト増刊『平成5年度重要判例解説』
- 「訴訟条件」田口守一編『刑事訴訟法』(一粒社)
- 1995年 「判例回顧と展望—刑事訴訟法」法律時報増刊『判例回顧と展望1994』
- 「盗聴, おとり捜査」井戸田侃・光藤景皎編『司法試験シリーズ 刑事訴訟法』(日本評論社)
- 「189条～196条注釈」高田卓爾編『新判例コンメンタール・刑事訴訟法』(三省堂)
- 1996年 「(判例解説) 違法な所持品検査と尿鑑定書の証拠能力」ジュリスト増刊『平成7年度重要判例解説』
- 「破防法って何?」奥平康弘編『破防法で何が悪い?!』(日本評論社)
- 「法律学ガイダンス・刑事訴訟法」別冊法学セミナー『法学入門1996』
- 1997年 「公訴提起の原則」法学教室197号
- 「破防法問題が残したもの」法学セミナー513号
- 1998年 「(判例解説) 親告罪における告訴の欠如」別冊ジュリスト『少年法判例百選』
- 「(判例解説) 必要的弁護」ジュリスト増刊『刑事訴訟法判例百選・第7版』
- 「令状主義と盗聴立法」法と民主主義327号
- 1999年 「少年犯罪の重罰化は少年にも被害者にも不幸」『日本の論点2000』(文芸春秋社)
- 2000年 「適正な事実認定と証拠構造論」刑法雑誌39巻2号
- 「現代の検察と刑事司法」刑法雑誌40巻1号

- 2002年 「論争刑事訴訟法・情況証拠」法学セミナー567号・568号
「公訴権濫用論の意義」別冊ジュリスト『刑事訴訟法の争点・第2版』
「論争刑事訴訟法・犯罪被害者の刑事手続上の地位」法学セミナー572号・573号
「刑事訴訟法の講義をのぞいてみませんか」法学セミナー増刊『法学入門2002』
- 2003年 「刑事法という世界」法学セミナー582号
「論争刑事訴訟法・自白の補強証拠」法学セミナー585号586号
- 2005年 「(書評) スティーブン・A・ドリズン著/伊藤和子訳『なぜ無実の人が自白するのか』」法律時報81巻10号
「(判例解説) 公訴権の濫用」ジュリスト増刊『刑事訴訟法判例百選・第8版』
- 2006年 「(判例評釈) おとり捜査の適法性」法律時報78巻11号
- 2009年 「事件から考える一殺人罪・コメント」村井敏邦・後藤貞人編『被告人の事情・弁護人の主張』(法律文化社)
「通信傍受法, 組織犯罪処罰法・犯罪収益規制法」『日本大百科事典(ジャポニカ)』(小学館)
- 2010年 「(判例評釈) 共犯者自白の信用性を否定して原判決を破棄した事例」法律時報82巻9号
「誤判冤罪の最新事情を追う一日産サニー事件」法学セミナー669号
- 2011年 「(判例解説) 強制採尿」『刑事訴訟法判例百選・第9版』
- 2013年 「『新時代の刑事司法制度』を問う」法律時報85巻11号
「(鼎談) 通信・会話の傍受」法律時報85巻13号
「検察審査会の役割と権限」ジュリスト別冊『刑事訴訟法の争
- 20(790) 法と政治 71巻2号 (2020年9月)

点・第3版』

「(判例解説) 情況証拠の有罪推認力の滅殺を理由に確定第1審の無罪判決を維持した再審判決」新判例解説 Watch13 巻

2014年 「(判例評釈) 再審請求審における執行停止決定に対する抗告の可否」法律時報86巻3号

2015年 「(書評) B. L. ギャレット著/豊崎七絵ほか訳『冤罪を生む構造』季刊刑事弁護82号

2016年 「(判例評釈) 勾留中の被告人の拘置所居室等の搜索差押」法律時報88巻8号

「(判例解説) 再審請求審の審判対象—姫路郵便局事件・即時抗告審決定」新判例解説 Watch19 巻

「(講演) 盗聴法の改悪で私たちの人権はどうなるのか？」海渡雄一編『市民監視5本の矢』(樹花舎)

「検察の特色」朴元奎・太田達也編『リーディングス・刑事政策』(法律文化社)

2017年 「(判例解説) 公訴の提起と犯罪の嫌疑」刑事訴訟法判例百選・第10版

「再審理論の新展開—関口論文へのコメント」季刊刑事弁護91号